

コウノトリのヒナへの足環装着作業への協力について

令和4年6月

栃木南部農業水利事業所

当方国営事業の主要工事施設である与良川統合排水機場の建設地に隣接する渡良瀬遊水地第2調節池では、小山市が設置した人工巣塔において、2018年から飛来し始めたコウノトリ「ひかる」（雄6歳）が、2020年11月頃から「レイ」（雌3歳）とカップルとなり、2022年3月29日（孵化推定日）に3年連続でヒナが誕生しました。

同市ではラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」の「保全」と「賢明な利用」のため、国の特別天然記念物であるコウノトリをシンボルとした貴重な湿地環境の保全と地域の活性化に取り組んでいます。この野外繁殖によるコウノトリのヒナの誕生は、1971年に国内野生コウノトリが絶滅し、2005年に兵庫県での野生復帰開始以降、東日本初3年連続となります。

【小山市 <https://www.city.oyama.tochigi.jp/site/wataraseyusuichi/259383.html>】

43日齢の2022年5月11日（水）に、個体識別のための足環装着及び検体採取（※）が実施されました。同作業においては、昨年に引き続き、同市から同機場建設工事の受注者である前田建設工業（株）に高所作業車の手配および操作について協力要請があり、無事に遂行されました。

同年5月28日（土）には、2羽のヒナの命名式が執り行われ、「セラ」（雄）、「ひなた」（雌）と命名されたとともに、同市から同社へ感謝状が贈呈されました。その後、6月5日には「ひなた」が、6月7日には「セラ」の巣立ちが確認されました。

当事業所としては、引き続きこのような豊かな自然環境との調和に配慮して事業を実施してまいります。

※＜作業の目的＞

○コウノトリの個体番号が書かれた異なる組み合わせの色の足環を装着することにより、個体の識別が可能となり、個体の生態等を詳しく把握・調査することができます。

○足環装着に併せて検体採取を行うことにより、ヒナの健康状態や性別が分かります。



高所作業車によるヒナの捕獲作業



足環装着作業



ヒナの命名式



与良川統合排水機場建設工事の受注者である
前田建設工業（株）への感謝状贈呈